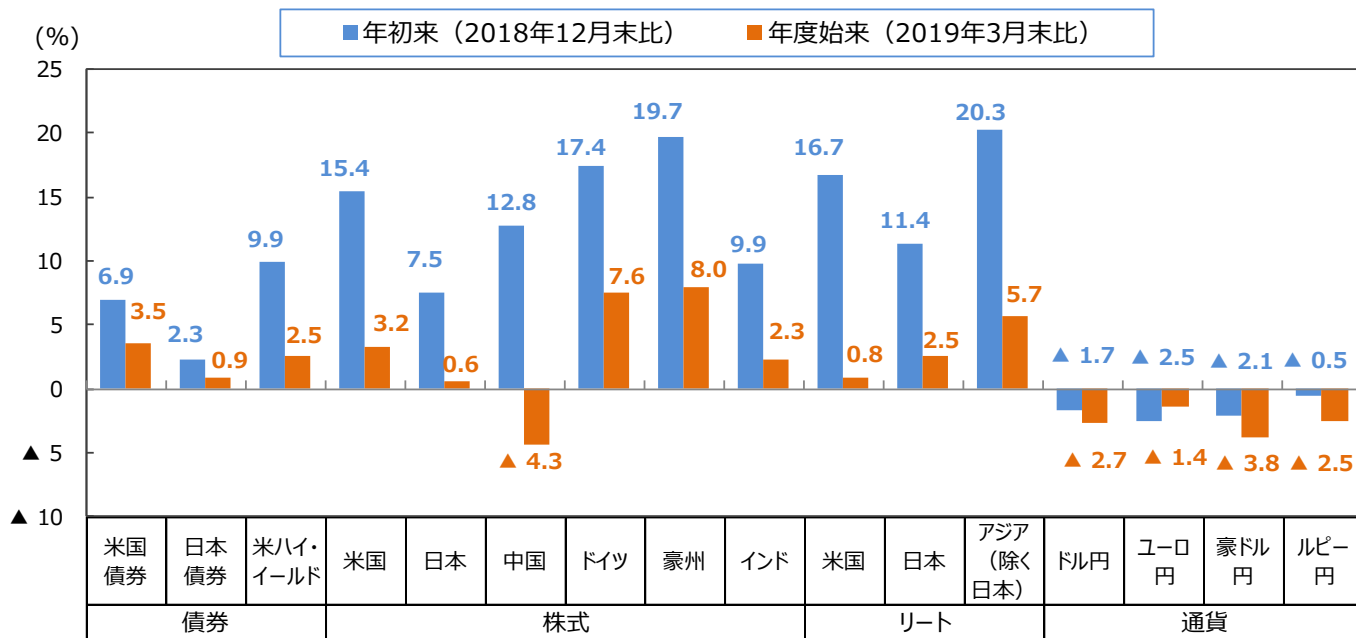


今日のトピック 主要な資産のリターン比較（2019年上期） 株式、債券、リートとも堅調、為替は円高

- 2019年上期（6月末時点）の主要な資産のリターンを見ると、米中貿易摩擦の激化から世界経済の減速懸念が強まるなか、米欧の中央銀行が金融政策を緩和方向に向けて舵を切ったことで、世界的にリスクオン（選好）の動きが強まり、株式、債券、リートの各資産とも堅調な展開となりました。
- 株式市場では、欧米市場などが金融緩和期待から大きく上昇したのに対し、中国市場は米国からの追加関税を受けて、4-6月期に調整しました。日本市場も4-6月期に伸び悩みました。
- 債券市場は、景気減速観測と米欧の金融緩和期待から堅調に推移しました。また、世界的に長期金利が低下するなか、リート市場は相対的な安定性が評価され、大きく上昇しました。
- 為替市場では、米利下げ観測の高まりで米ドル安地合いとなるなか、円は各国通貨に対して上昇し、やや円高となりました。

【2019年の主要な資産のリターン比較（6月末）】



(注) 債券は米国：Bloomberg Barclays US Aggregate Total Return Index、日本：Bloomberg Barclays Japanese Aggregate Total Return Index、米国ハイ・イールド債：Bloomberg Barclays US Corporate High Yield Total Return Index。株式はトータルリターンベース、米国：NYダウ工業株30種、日本：日経平均株価、中国：MSCIチャイナ指数、ドイツ：DAX指数、豪州：ASX200指数、インド：SENSEX指数。リートは米国：S&P米国REIT指数（配当込）、日本：東証REIT指数（配当込）、アジア（除く日本）：S&Pパン・アジアREIT指数（除く日本、配当込）。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2019年7月5日 主要な資産の利回り比較（2019年7月）
2019年7月3日 先月のマーケットの振り返り（2019年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。